



妙の光

通刊 86 号 復刊 66 号

2009 年 7 月 1 日 (季刊)

角田山妙光寺 発行

〒 953-0011
新潟市西蒲区角田浜 1056
TEL 0256-77-2025

夏椿

夏の季節に咲く花が少ないなかで、緑の葉の中に清楚な白い花が印象的だ。冬から春に咲く椿は境内にたくさん自生しているが、夏椿はなく、別名を「沙羅双樹」ともいうので以前から欲しいと思っていた。入手して半日陰がいいというので本堂と祖師堂の間に植えたら、条件がいいのかめきめき成長している。

お釈迦ご様入滅のとき、四方に植えられていた「沙羅双樹」の木も悲しんで一斉に枯れ、鶴の羽のように白くなつたという伝説がある。ここから「四華」といつて、亡くなるとご遺体の枕元に四本の白い紙製の花を飾る習慣がいまも各地にある。

ただインドの「沙羅双樹」と「夏椿」は間違いによる別物だそうで、『平家物語』で有名な「祇園精舎の鐘の音／諸行無常の響きあり／沙羅双樹の・・・」あの一説は、夏椿らしいとか。

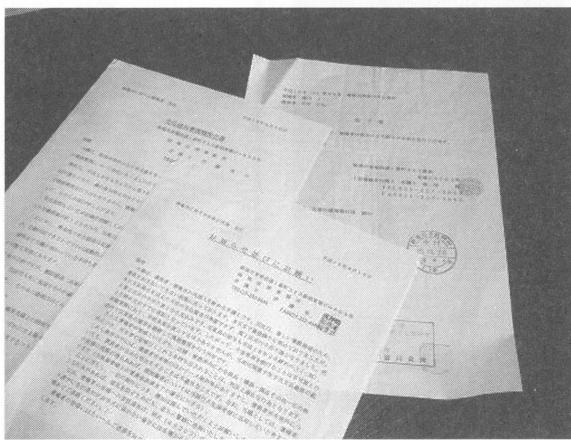
葉の色に白は淋しき夏椿 高木晴子

信 心 拡 大 版

借 財 を 負 つ て

新潟市 山田 三郎さん（六十七歳）

小 川 英 爾



倒産を告知する当時の文書

長引く不況の時代、山田さんは引き継いだ会社の倒産で今もその借財を返済する日々を過ごしている。それでも今「つくづく生きていて良かった」と明るく語る。四男二女、六人兄弟の三男に生まれ、中学生の頃にはすでに兄姉三人は家を出ていた。

農業高校を卒業して運転手や土木作業員として働いた。二十三歳のとき、親戚の起こした新潟の家具卸販売会社に誘われて入社。営業マンとして東北六県と富山長野県等を担当して販路を拡張、文字通り社長の右腕として会社の売

り上げに貢献した。ピーク時には三十四人の従業員を抱える県内でも中堅企業に発展、山田さんは社長の親族ということで株を保有し専務になった。

家庭にあつてはワンマンな父親と身体に障害を持ちながらもわずかな畠仕事に精を出す母親、それに妻子と六人家族。古くなつた家も建て替えて、ローンを払いながらもそれなりに幸せな日々を過ごしていた。

やがて父親に続いて母親も亡くなつた平成八年、その年の六月に社長が会長職に退き山田さんは請われて社長に就任する。しかしその頃すでに不況の兆しかった。翌年会長が死去すると、部長になつていた会長の長女が経営に口出しを始める。そして消費税が3%から5%に引き上げられ、これを売り上げは落ち始めていた。仕入先のメーカーまでが相次いで倒産。苦境の最大手のメーカーが製造から卸までを独占するなど、山田さんのような地方の中堅卸会社はとても厳しい環境に追い込まれた。そのころは県内の銀行までもが倒産し

社長就任、倒産、自殺未遂

売り上げが激減して会社の資産の目減りが目に余る

出してちょうど一ヵ月後の五月二十日、正式に会社の倒産整理に入つた。

ころ、山田さんは会長の長女の持ち分の会社の株を半ば押し付けられ、実質上のオーナー社長となる。「あのときしつかり断つて会社を閉めればよかつたのだが、従業員もいたし、世話になつた先代社長の人柄もよく知つていてそれができなかつた。だから兄弟や妻や長男のお金までかき集めて無理したのがいけなかつた。まもなく会社の売り上げは落ちる、負債は増える、個人的な借金はある、三重苦だつた」とふり返る。

それからというものやめるにやめられず死に物狂いで資金繰りの毎日を過ごすが、とうとう平成十三年四月二十日に不渡りを出し、山田さんは雲隠れすることになる。僅かな金を持つて関東に逃げ、あてもなく水戸の偕楽園を見学したりして過ごすが気持ちは塞ぎこむばかり。そのころ自宅には取引先からの電話がひつきりなしに掛かつて大変だつた。家族も山田さんの行方を案じていた。とうとう二十日目に、群馬県沼田市のスーパーで包丁を買い、赤城の山中に車を留めてそれを首に当てた。以前営業で歩いた東北で、同様にして死んだ人を見たのが頭にあつたのだ。しかし、実際にやつてみたら痛くてとてもズシリとはいかなかつた。今日こそは、と朝八時から車内で悶々としていた午後三時、次男からの携帯電話が鳴つた。「親父、死ぬな！俺に結婚したい人がいるんだ。だから生きていってくれ」と言わせて、ハツと我に返り思ひとどまつた。そのときの傷は今も首に残る。自宅に戻り十日後、不渡りを

支えられて今に

幸いなことに不渡りを出して雲隠れしてからも心配してくれた大口の納入先から支払いがあり、従業員にわずかでも退職金を出すことができた。苦しくても給料は払い続けてただけに、迷惑をかけずにすんだ。取引先のメーカーは負債の帳消しに応じてくれた。どんなときでも先代社長の指示通り手形割引でサラ金など町金を使わず、兄弟や妻の実家の世話になつたので、無理な取立てもなかつた。A銀行には負債を無くしてるので、そこから長男名義で融資がなり自宅を競売に掛けられることも免れた。弁護士の適切な助言で年金が当てになることがわかり、自己破産を申請した。いまは派遣会社の紹介する仕事に就いて、その収入と年金を合わせて迷惑を掛けた親族に返済している。あと二年余りでその目処もつく。「あのとき次男からの電話がなければ今生きてはいなかつた。つくづく生きていて良かったと思う」と。その次男には長男に続いて二人の子供も生まれた。

こうした話を私が聞いたのは、妙光寺の行事に山田さんが当番の一人としてお手伝いくださり、慰労会の席でかなりお酒が進んでからのときだつた。「お寺がきれいに整備されて本当に喜んでいます。もつともつと協力したいんだけど実は……」と言う話から始まつた。「十年前本堂建て替えるときの寄付金はとても辛かつ

た。でも最悪のときではなかつたから平均額を四年間に分けてさせてもらつたけど、その後大変でした。なんとかなつて今こうしてお話をできることを喜んでいます。この前住職が家に来てくれたときお話ししよう思つたけど丁度風邪引いてましてね。私は住職もお寺も好きなんです」と語り、さらにこんな話もされた。

家族・・

山田さんの父親は戦時中陸軍大尉だった。そんな経歴から戦後は村の助役を勤めた名望家だったが、芸者を妾に囲つて駅前に小料理屋を出させて家に戻らないことがあつた。その店を兄に連れられて偵察に行つた幼い頃の事も覚えている。やがて田んぼを二反売つて芸者と縁を切つた。そのころ辛かつたせいか母親が日蓮系の新興宗教に勧誘され信仰していた。ある日、その新興宗教の幹部数人がやつてきて、戻つた父親も負い目があつたのか同席するところで正式に入信することを決め、幹部が仏壇を鉈で二つに割ることになつた。一部始終を見ていた当時中学生の山田さんが、同じ「南無妙法蓮華經」を唱えるのならなぜそんなことまするのかという疑問があつたのか「やめろ!」とわめいた。幹部の態度がとても横柄だつたのも大きな理由だつた。「この家には反対者が一人いる」幹部の言葉をきっかけに、父親が「そうだ、やはりやめよう」と言い、入信には至らなかつた。それ以来なのか、妙光寺にはことのほか愛着が強いという。父親が先代住職と同級生だつたと聞かされていましたこともあるかもしれないとも。

いま同居する長男夫婦も仕事を持ち、働きに出るようになつた奥さんも明るい人柄からか自動車販売会社で即採用され、この不況下で優秀なセールスレディとして何度も社内表彰されている。山田さんの従兄弟の次男が埼玉に住み知らずに安穩廟を求め、後での話を聞いた従兄弟も妙光寺の檀徒になり昨年亡くなつた。生前「俺もお前さんと同じ妙光寺になつたぞ」と山田さんに嬉しそうに話してくれた。単なる偶然には思えない縁を感じるという。

穢土の修行

『極楽百年の修行は穢土一日の功德に及ばず』日蓮聖人『報恩抄』のお言葉。極楽のようにすべてが満ち足りて条件のそろつたぬくぬくとした環境の中で積む百年間の修行より、私たちの暮らす、苦難が多く惡条件の重なつた生きしていくのに辛いこの穢れた世の中で積む、そのたつた一日の修行の功德（ご利益）の方が遥かに大きいという意味です。

家族と支えあい、どんな逆境でも誠実に人と接する山田さんの生き方が、命という何ものにも代えがたい功徳をいただいたように思います。

（親戚に迷惑をかけたのでと、ご本人の希望で仮名にしました）

寺の動き

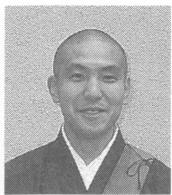
●新スタッフ紹介

研修生の育成に失敗して以来人手の確保に頭を悩ましきましたが、四月から新たに二人の若いスタッフが加わりました。住職を含めて七人となりや

り多い感もあります。ただお寺は二十四時間年中無休で、これまでの人數では休みも取れずに体を壊すほどの状況でした。これでようやくそれぞれが定期的に休める体制ができました。

一方で人件費の捻出が通常会計だけでは無理ですので、安穏基金から持ち出しにしてしばらく様子を見ることがあります。

永石光陽（ながいし・こうよう）33歳。



大分市のお寺の次男で、妙光寺の運営を勉強したいと希望してきました。立正大学仏教学部卒業後、布教研修所終了、大荒行二回成満、布教院一回終了という修行歴を持ちます。十年前に研修所で住職の講義を受け、以後毎

年夏のフェスティバル安穏の手伝いに参加しており妙光寺の基本は理解済みです。一日も早く皆さんを覚えるため、月参りや法事等の法務を担当します。同伴してきた奥さんは看護師で新潟市の臨時職員に就きました。

小川 紗（おがわ・あや）22歳。住職の三女。住職夫人の



体調不良を支えるべく、昭和女子大卒業を期に四年間の東京遊学生生活を終え戻りました。学生時代は東京ディズニーランドでアルバイトをして、接客を仕込まれました。玄関での受付と電話応対、パソコンでの事務仕事を担当します。

この他に、法務と寺の内部管理を担当するお馴染みの鎌田上人は勤続

二十五年、境内の維持管理を担当する小泉さんは八年目になりました。小泉さんは二級造園技能士として庭の管理と、和洋食のできる調理師として行事には包丁を持つて参拝者のおときを作ります。以前は県内最大手の葬儀社で

調理部門に勤務していました。昨年秋から事務を担当してきた安穏会員の柿崎さんは、もうしばらくパトで継続してもらいます。「まきおやこ劇場」の事務局長というイベントの準備と運営のプロですから、さまざまな行事には欠かせない存在で、さらにその力を綾に伝授してもらいます。

有能なスタッフで住職が随分楽になるかと思いまや、代理の効かない仕事も多くそこそこ忙しくしています。妻なぎさは引き続き経理を担当しますが、お陰様でこちらは心身ともにかなり樂になりました。どうぞよろしくお願ひします。



左から柿崎、小川、住職、鎌田、小泉

●仏像の修復が進行中です

本堂のご本尊様の補修が進行中です。

所終了、大荒行二回成満、布教院一回終了という修行歴を持ちます。十年前に研修所で住職の講義を受け、以後毎



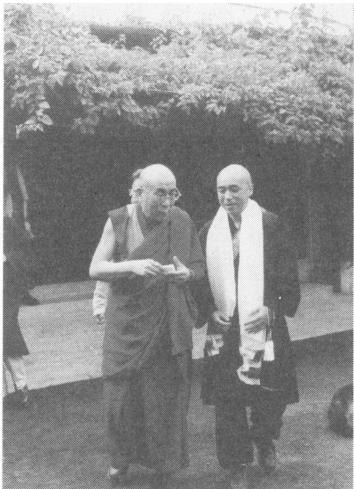
お衣に描かれた金泥の模様

祖師堂に安置する日朗菩薩、開山の日印上人のお像も古くて痛みがひどい状態です。こちらは古い色彩のまま修復する方針で、若い仏像修復師に依頼してありますが、仕事が混んでもう少し待つて欲しいと言われています。

お衣に描かれた金泥の模様

八年目を迎えて、木肌の色調節のため昨年秋に滋賀県の仏師の工房に運びました。これは当初から気になつた右手の色調節が主目的でしたが、結局ここだけ材を取り替えました。これに合わせてお衣の一部に金泥を描き足し、ほんの少しだけ華やかさが加わり四月に戻りました。四菩薩像も来年の冬に金泥を描き加える予定です。この費用を内藤至様他六名の方からご寄附いただきました。

マධ下はノーベル平和賞受賞者として世界的に知られた方です。住職はご縁の仏師の工房に運びました。これは当初から気になつた右手の



ダライ・ラマ猊下と

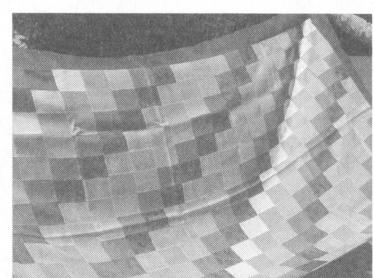
マධ下はノーベル平和賞受賞者として世界的に知られた方です。住職はご縁の仏師の工房に運びました。これは当初から気になつた右手の色調節が主目的でしたが、結局ここだけ材を取り替えました。これに合わせてお衣の一部に金泥を描き足し、ほんの少しだけ華やかさが加わり四月に戻りました。四菩薩像も来年の冬に金泥を描き加える予定です。この費用を内藤至様他六名の方からご寄附いただきました。

葬儀は本来仏さまの弟子になるための儀式ですから、棺掛けは僧侶の着る

マධ下はノーベル平和賞受賞者として世界的に知られた方です。住職はご縁の仏師の工房に運びました。これは当初から気になつた右手の

マධ下はノーベル平和賞受賞者として世界的に知られた方です。住職はご縁の仏師の工房に運びました。これは当初から気になつた右手の

マධ下はノーベル平和賞受賞者として世界的に知られた方です。住職はご縁の仏師の工房に運びました。これは当初から気になつた右手の



ポジャギ

お釈迦様像が

● ポジャギの棺掛けを作りました

チベット仏教の指導者でダライ・ラマ猊下はノーベル平和賞受賞者として世界的に知られた方です。住職はご縁の仏師の工房に運びました。これは当

マධ下はノーベル平和賞受賞者として世界的に知られた方です。住職はご縁の仏師の工房に運びました。これは当初から気になつた右手の

マධ下はノーベル平和賞受賞者として世界的に知られた方です。住職はご縁の仏師の工房に運びました。これは当初から気になつた右手の

マධ下はノーベル平和賞受賞者として世界的に知られた方です。住職はご縁の仏師の工房に運びました。これは当初から気になつた右手の

●新しい土地に「安穏廟」を増設する

計画です

「杜の安穏」

として増設してきました。安穏廟が昨年秋に敷地の限界から受付を停止しました。



建設予定地

お問い合わせください。

檀徒用「安穏廟」

檀徒でお墓を持っているが後継ぎがないため安穏廟を希望するが、これまでのお墓をどうしたらいいかという相談があります。そこで、従来の墓石を生かして一定の場所に集め、集合形式

にした永代供養墓を計画しました。場所は従来の墓地の一角で行政の許可是不要ですが、整地等に今少し時間を要します。お問い合わせください。

●「ご判さま」華やかに

江戸時代から続くといわれる春の伝統行事「ご判さま」が、昔から雨が降らないと言われる通り、今年も見事な快晴のもとで行われました。今年は何年ぶりかで仏具店と茶店が出店し、繁盛したようです。

境内全域が国定公園に指定されているため、制約が課せられ区画数も制限されると思われます。それだけ環境がいいということでしょうか。お知り合いのご希望の方がおられましたら早目に



本堂に向かうお練りの列

たころを覚えている方も多いのです

が、そ

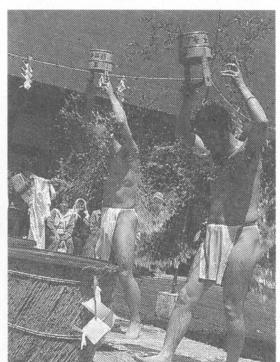
の面影は今ありません。

参拝の方々の中を、雅楽と稚児行列を先頭にした式衆が境内を練り歩いて本堂に向かい、寒百日間の荒行を終えた修行僧二人による水行もあります。残念ながら天気が良すぎたことと、連休の重なり具合で農作業が忙しかったせいか参拝者がやや少なめでした。

当番でお手伝いいただいた山本地区と、事前ののぼり立てから当日の輿担ぎを担当した角田地区の檀信徒の皆さんには、田植えで忙しい中ありがとうございました。

●春・桜の鎌倉を団体で参拝しました

四月五日、桜が満開の鎌倉で日帰りの参拝遠足を行い、新潟、関東各地から檀信徒、安穏会員が四十名参加されました。文字通り花曇りの北鎌倉駅か



水行



龍口寺で

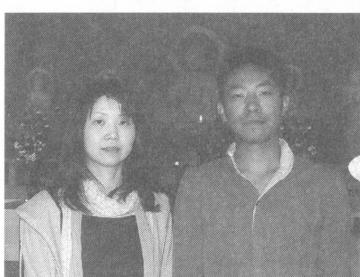
ら貸切バスで円久寺に参拝。小川住職が仲人をさせていただいた松脇ご住職のお話はお馴染みの松脇節で一同和やかに。そこで昼食をいただき、観光客で大混雑の市内を車内から眺めながら安国論寺へ。玉川ご住職が丁寧に説経、

説明くださり、また境内の見事な花々に大感激。

最後の本山龍口寺では着任されたばかりの本間貫主様（本山の住職）が小川住職と不思議なご縁があり、お寺を挙げて大歓迎いただきました。当日花まつりもあつて、地元の茶道「淡交会」の方々総出で抹茶の御接待をいただきました。帰りには貫主様の奥様が感極まり涙でハンカチを振って見送つて下さり、恐縮するばかりでした。渋滞する市内を大型バスで時間通りに参拝できたのは、松脇ご住職のご案内のお陰でした。

●新婦の初詣り

妙光寺では檀徒にお嫁さんが来る人と、姑がお嫁さんを伴い本堂の仏様にご挨拶に見える「一見参り」という習慣がありました。このたび新潟市西区の高杉さん夫妻が長男とお



●コンサートが大盛況

この春は見事なコンサートが続きました。四月二十五日、世界的に知られるスザン・オズボーンのアカペラのコンサート。あつと言う間にチケットが売り切れ、お断りするほど。アメリカに住み今回の来日では「題名のない音楽会」への

テレビ出演もありました。桜の花に寄せる思いを語りながらの、声量たっぷりで透き通った声が本堂に響きました。



スザン・オズボーン

五月十六日は住職の友人で写真家の天野尚さんの写真と、ソプラノのコンサート。正直なところ映像と歌がうまくかみ合うか、人は集まるか、心配しました。ところが天野さんが天野さんのスタッフの入念な準備でぴったりとはまり、高い天野人気で満席に集まつた人たちが一同に感激して大成功。当日テレビ取材も入り、その模様がニュースで放



シャンソンの奉納



ソプラノコンサート

送されました。

五月十二日、京住院を寄付された朝霞市の河野清治さんが、子供のいない叔父夫妻の遺骨での葬儀を希望して参拝。家族のいない河野さんを日頃お世話をくださる近所の松永さん母娘が同行したのですが、シャンソン歌手のお二人が本堂で歌を奉納したいとのことで、法要の後歌つていただきました。参列した河野さんの親戚と寺に居合わせた人たち二十人ほどが贅沢なプライベートコンサートを堪能しました。

●役員会議を開催

妙光寺は檀信徒、安穏会員の中から二十三名の世話人がでて、そこから三名の総代、監査、議長を互選で選出、すべての事柄をこの世話人会議で審議し運営しています。今年は三年ごとの改選期にあたり新旧役員が出席して六月二十六日定例会議を開き、事業報告、収支決算、事業計画、人事、予算等を審議しました。

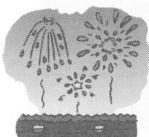
今年は安穏廟の増設、客殿の鉄骨と本堂・祖師堂の外壁の塗り替え工事の実施などが決まりました。工事は全額

當繕積立金を取り崩して賄いますので、檀信徒の皆さんに特別ご負担いただることはありません。こうした妙光寺のすべての収支は公開していますので、希望される檀徒の方にはいつでもご覧いただけます。

終了後お寺でささやかな懇親会を行ない、旧役員の慰労と新役員へのご協力をお願いしました。

●本堂の椅子改善案

本堂で参拝者が使用する椅子は、世界的に有名な建築家アーレトのデザインでフィンランドから直輸入したものです。高価な物ですが優れたデザイン性と堅牢な耐久性は、長く使えるという点で結果的に大変良い選択でした。ただ硬くてお尻が痛い、冬はおしりが冷たいという高齢者からの声が以前からあります。クッションを検討していますが、一二〇脚と数量が多いだけにその予算の見通しが厳しい状況です。ご協力お願いできる方がおられれば幸いです。



夏と秋の諸行事ご案内

●年会費をお願いします

檀信徒会費、安穩会費をお盆までにお願いします。世話人のいる地区は世話人が伺います。それ以外の方には振替用紙を同封しましたので、お近くの郵便局から送金されるか、妙光寺受付にお持ちください（振替用紙もお忘れなく）。事務処理の都合で振込先口座が「妙光寺檀信徒会」名です。また銀行、コンビニでの振込希望の声もありますが、手数料が高額で現状では困難です。ご理解ご了承をお願いします。

施餓鬼とは、欲望に駆られて餓鬼の世界に墮ちた母親を救つたとう、お釈迦様のお弟子の話に由来します。生きとし生けるもの全てに施しを与える供養の意義を伝えるもので、さらにこれが旧暦の七月に亡き人を迎え、親族が共に過ごすお盆の始まりといわれます。

今年は土曜日で混雑が予想され、早めのお出かけをお勧めします。

お盆礼、志、年会費、おとき等の受付所は客殿玄関です。昨年混雑してご迷惑をおかけしたので、今年は係の人数を増やして対応いたします。

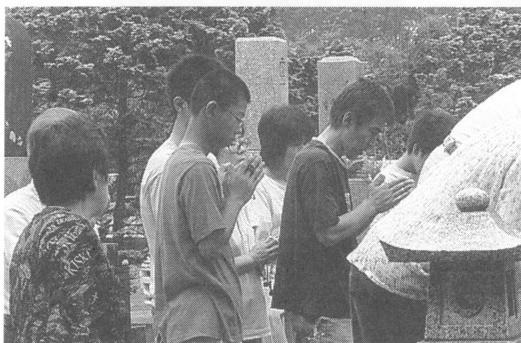
塔婆供養　亡き人への供養の気持ちを表す高さ一八〇センチの板（塔婆）に戒名を書き、それを施餓鬼法要で住職が全て読み上げします。塔婆は法要中本堂に並べ、その後もお盆が終わる十六日まで立てて置きます。

お申込みは世話人か、遠方の方は会費案内にあるはがきでお願いします。

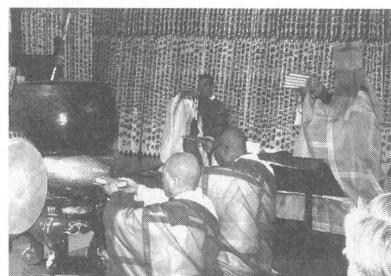
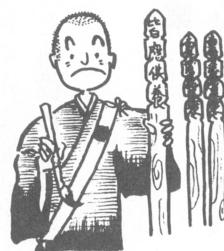
新盆法要　昨年のお盆後に亡くなられた方は今年新盆ですので、直接お知らせします。本堂に個別に位牌を安置し、ご供養しますのでご家族でお参りください。

十時半から安穩廟合同法要、十一時から本堂で施餓鬼法要と新盆法要です。

●お盆の墓参りと施餓鬼法要



お墓参り



施餓鬼法要と卒塔婆

●お盆棚経　八月初旬～十六日

住職と鎌田、永石、お手伝いの成川上人の四人で全檀徒宅に伺います。旧新潟市内、県内遠方のお宅はご連絡の上で八月初旬から。近隣のお宅は従来の日程ですが、予定を知りたい方、留守になるお宅は十日過ぎに電話ください。



●身延山への団体参拝旅行

別紙ご案内しましたが、総本山身延山久遠寺、七面山（山梨県）への団体参拝旅行を募集します。隔年で実施していく、今年は比較的若い世代の参加が多くなりました。初めての方でも心配いりません。どなたでもお誘いあわせご参加ください。

詳しくはご遠慮なくお問い合わせください。

期日：九月四日（日）～十月六日（火）

一泊三日

費用：七面山登詣組……3万7千円
諸寺参拝・温泉宿泊組……

4万5千円（旅館は名のある宿で信徒の方の紹介があり特別価格です）

* 関東からは新宿駅身延山行き
直通高速バスがあります。

●生前に戒名を

戒名は仏さまの弟子になつた証ですから、生前につけるのが本来です。戒名をいただいて、その後の自分の生き方を戒めるという意味があります。日蓮宗では法のいみ名として法号と呼びます。

菩提寺の住職が仏さまに代わつてお授けするものですから、その寺の檀徒にしかつけしません。この先代々続かなくとも、また夫婦のひとりだけでも、個人につけるものですから問題ありません。これまでの七回で百五十人近い方が受けられました。希望の文字をお聞きします。費用は三万円で、お名前と法号を金糸で刺繡した檀信徒用袈裟、それに数珠を記念品として差し上げます。

次号で詳しく述べますが、今年は十一月八日（日）に授戒式を行います。



七面山の宿坊で（07年）

フェスティバル安穏ご案内

別紙ご案内のとおりフェスティバル安穏が二十回目です。二十歳のフェスティバルですから少し祝い気分で、ビッグなゲストをお迎えしました。小川住職と親しい松本市神宮寺の高橋ご住職のお世話で小室等さんが決まり、小室さんがおすぎさんをご紹介くださいました。意外な組み合わせかと思われますが、眞面目なお二人は社会問題への発言もかなりあります。おすぎさんは佐高信さんという辛口評論家との対談本もあります。

小室さんは七〇年代にフォーケンソンゲの神様とも呼ばれ、最近は詩人の谷川俊太郎さんの詩に作曲するなど活躍されています。今回のテーマ「生きているということ」谷川さんの詩に因んだもので、歌と語りの一時間五十分を堪能してください。「会場の雰囲気を見ながら休憩取つたりして、私たちで進行しますからご心配なく」と仰る

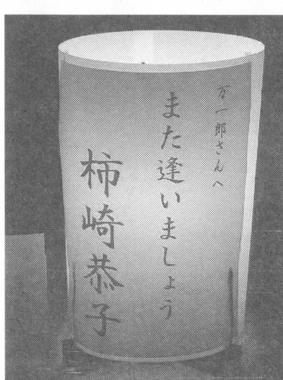
など、打ち合せでもとても気さくに対応していただいています。

有名ゲストで一般参加者も増えることが予想されます。また借りる椅子の数など事前準備の無駄を減らしたいので、今回は妙光寺関係者を優先的に事前受付します。そのため申込はがきをパンフレットに付けました。これはがきに限定はしませんが、同じ内容を記入してお申込みください。

さらに献灯の形を変更します。第一回目からの大口ウソクを止めて、妙光寺特製の灯籠にしました。大口ウソクは燃焼時間が読めず、法要終了後も燃え残りがあるとその片付け作業が大変です。多くの方が申込できるよう金額を下げました。広い会場に大口ウソクを事前に並べておくと申込者の名前が見つけられないという声があり、当日銘々が自分の手で持つて法要に参加する方法にしました（都合で参加でき

ないが献灯だけでもという方の分はスタッフが並べます）。

見本写真のようにメッセージを入れることができます。献灯者名だけでも結構ですし、故人のお名前とメッセージ、またここに眠るすべての方々へ。安らかで、穏やかな世界でありますようにといつた祈りの言葉も大歓迎です。ぜひあなたの一灯を加えてください。

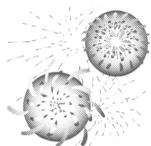


二年間休止した交流パーティーを復活します。小川住職もたたく太鼓に合わせて恒例の安穏甚句は、盆踊りの鄉愁が漂います。先ごろ全国紙でも紹介された千葉の若い住職のプロ並みの歌声は、心洗われるかのような優しさに溢れています。

七ページでお知らせのとおり、「杜の安穏」を敷地を変えて増設の予定です。詳細はお問い合わせください。

「新しいはじまり」

小川 なぎさ



この春お寺にも新入スタッフが二人増え、合計七名で新年度をスタートしました。

まだ完全には慣れていないので、とまどいや気を使う部分も増えていますが、これからのお寺の運営にはこの過渡期が重要かつ必要なことでもあります。身体的には負担が軽くなつたので軌道に乗つてくれれば大丈夫だと思います。小さなアットホームな個人商店からコンビニになつたような・・・大きいけれど、時間がたてばささいな変化として当たり前に感じるようになるでしょう。

夫である住職を支えてきたという自負はあるものの、寺庭婦人というのはある意味では滅私奉公のような仕事で、住職のいうことは絶対です。私はわがままをほとんど言わずに26年間

過ごしてきましたが、昨年からの体調不良とそして今年からの新体制にともなう変化は、自分自身に「そろそろ自分のことも考えていいんじゃないの」と問いかけています。「だからどうしたいの?」といつても、答えはすぐに見つかりそうもありませんが。(笑)

安穏フェスティバルもいよいよ二回の記念を迎えました。二十年の時間は寺の景観も大きく変えました。新体制のもとで、今度はどのような変化が起ころのか楽しみでもあります。お寺の持つ使命を忘れずに進んでいかなければと戒めています。新しい妙光寺がうまく回つていくためにもう少し時間をください。また失敗も当然あると思いますが、おおらかに見守つていただけたら幸いです。新しい始まりに皆様のご支援と忌憚のない進言もどうぞお願いします。

暑い夏がやつてきます。お気をつけをお過ごしください。

分で気がついていないだけ」正直驚きました。確かになんでも自分でしなければという意地があり、体力もあるので可愛げがなく、がらつぱちな中年になつたことは認めますよ。「それはほめ言葉ですか?」ときくと、「時々むつとすることがある」と言うので言葉を失いました。年月と経験は人を大きく変えます。この際きらわれても頑固で気の強いおばあさんをめざして、日々修行を積んで行こうと思っています。

行事案内

・関東地区お盆参り 七月初旬

関東地区の檀徒宅にご連絡のうえ住職が伺います。

・お盆墓参り、施餓鬼法要、新盆供養 八月一日（土）

午前六時～十時～墓前でのお経受付。十時半～安穩廟法要。十一時～本堂で施餓鬼法要と塔婆供養、新盆供養。十二時～お斎。午後一時～法話。
お斎等のお申込みは当日受付でどなたでもどうぞ。

・お盆棚経 八月初旬～十六日

今年は住職、鎌田、永石、応援の成川上人四人で全檀徒宅に伺います。

旧新潟市内、県内遠隔地はご連絡の上で八月初旬から。近隣は従来の日程ですが、予定を知りたい方、不在の方は十日以降に電話ください。

・岩屋七面宮祭礼 八月十九日（水）

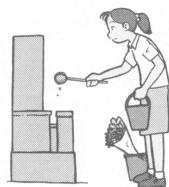
午前十時半～本堂にて法要とお加持。その後岩屋に移動して法要。お昼に赤飯のご供養があります。

・第二十回フェスティバル安穏 八月二十九日（土）

今年は席を事前申し込みの方優先にします。詳細はパンフレットをご覧ください。

・秋彼岸会法要 九月二十日（水・際）

午前十時半～安穩廟法要。十一時～彼岸会中日法要。十二時～お斎。午後一時～住職、永石法話。



あとがき



夏から秋にかけてはお盆を中心に行事が重なり、ご案内が多くなりました。できるだけすつきりわかりやすくしたいのですが、時間がとれないまま締切が来てしました。読みにくいかと思いますが、ゆっくり読んでみてください。
この発送作業も大変で、お手伝いの方々が日曜日に集まって一日がかりであります。会費のご案内もあり、何度も確認してやるのですが大勢の仕事です。間違いがありましたらどうぞご容赦下さい。
暑い夏が来ます。くれぐれもご自愛いただき、乗り切ってください。小川